人間＝脳の仕組み、脳の働きに、乾杯！！

今月、奇しくも脳科学の最先端の研究に携わる二人の学者の講演と著書に接した。

講演は、「ブレイン・イメージング」で有名で、認知症の高齢者へのドリル等でマスコミでも取り上げられ、また、一般向きに脳のトレーニング等の著書を数多く出版している学者であった。人間を特徴づける大脳の前頭野をどう活動させるかの話であり、実験では、素材からの調理・料理をしてる時が、最も前頭野が活動するので、料理を大いにすべし、料理済みのパック入りの食物が氾濫する現代社会への警鐘にも触れていた。

本：「進化しすぎた脳」は、新聞の書評が目にとまり購読した。日本人の脳科学者が、アメリカの高校生に脳の話の１０日間の授業を収録したものである。私には、この本の方が新しい知識との出会いもあり、面白かった。

高校生向きなだけに、脳の働きの仕組みを分かり易く図表入りで解説され、高校生とのやりとりまで記載されていた。

特に、人間の心は脳の働き、つまり神経細胞の働きは、結局シナプスにおけるイオンレベルの伝達物質の問題であり、その仕組みを丁寧に解説してる章が新鮮であった。てんかん、認知症（アルツハイマー病）、また、がんの疼痛緩和の麻酔薬等の働きまで、このシナプスレベルの伝達物質の仕組みで解説されていた。ただ、私には、伝達物質の分子記号等はチンプンカンプンなので、ここで説明できないので、詳細は本をご覧あれ。

授業の最後に、著者は高校生に「複雑な脳をこの４回の講義で簡潔に話そうなんて不可能だし、無謀な試みにほかならないよ。それにね、脳を理解しようなんて、そもそも傲慢でおこがましいチャレンジだと僕は感じはじめている。だって、脳を理解するのも、自分の脳を通じて理解するわけでしょ。もし簡単な実験で解明されちゃうぐらい脳が単純なものだったら、その程度の脳を使って僕らはこんな複雑な思考なんてできないよ。人間ってこんなにも素敵な存在なんだから、人間の脳がそんなに簡単にわかってたまるかってね。脳科学者ってやつは、そういう矛盾に気づきながらも、でもやっぱり夢をみちゃうロマンティストなんだろうね。」と語りかけている。

正にここに、自らの行動に謙虚さを持ちつつ、なお自らのロマンを追うという、脳の働きの素晴らしさ＝人間の素晴らしさがあるということであろう。

人間＝脳の仕組み、脳の働きに、乾杯！！

（2005 年 1 月 28 日　記）